

(特非) 勿来まちづくりサポートセンター

復興支援助成

3年目

実践

防災緑地を地域資源として 活かす環境保全事業



海フェス2016で海に親しむ子ども達

海フェス2016
～ライフセービング体験
プログラム～への参加者 **350人**

ドングリ・苗木採取&
ウォーク6月・10月実施 **2回**

活動の全体目標に
対する達成度 **75%**

課題

岩間町に建設される防災緑地を地域資源として活用するためには、周辺環境との調和や連携などが必要になってくることから公共空間の利用性が高い公園や海の活用が課題。

目標

岩間町が町としての機能を取り戻すために、普段使いの中で防災緑地の地域との密着度を高め、さらに環境保全と住民参加型の維持管理に繋がる事業を行うこと。

活動内容

①岩間海岸において、海フェス2016～ライフセービング体験プログラム～を開催し、地元の子ども達やマリンスポーツの体験希望者に海と親しむ機会を作った。また、ライフセービングの発祥の地であるオーストラリアへの視察研修を行い、体験や意見交換、さらに海の環境保全についても研修した。②防災緑地に植樹するドングリ・苗木を採取し生育を行った。③防災緑地利活用コア会議を開催し、タイムカプセル・モニュメントの設置の検討を行った。



ドングリ・苗木採取&
ウォークの様子

達成できなかったこと

希望のモニュメントの名称募集を計画したが、福島県からまだモニュメントが計画の段階なので募集は実施可能になってからと「待った」がかかった。

今後の展望

防災緑地の整備については、おおむね合意出来た。今後は活用について話を進めていきたい。

成果と工夫した ポイント



成果

広葉樹の植栽では現在までに延べ270人が参加し、平成29年度秋の植樹祭に向けて1,500鉢の苗木を育てた。地元小学生の植樹への参加によって将来にわたり維持管理を含めた関わりを持つ状況を作ることが出来た。

工夫

チラシを管内小中学校・高校の全員に配布、PTAとの連携を図った。